2018
教職への道 No.38

CONTENTS

巻頭言	01
教職をめざすみなさんへ	02
教育実習に向けて	04
介護等体験実習に向けて	08
教育実習の報告	10
介護等体験実習の報告	22
平成29年度　教育実習修了生へのアンケート結果	23
平成29年度　教員養成・採用・研修に関する各学科・各課程の取り組み	27
卒業後の私	29

参考資料

1．教育実習事前の諸注意…… 32
2．「義務教育教員免許志願者に対する介護等体験実習」実施要領…… 34
3．教員採用選考試験の動向とその対策… 35
4．平成30年度大分県公立学校教員採用選考試験結果…… 50
5．過去５ヶ年の教育職員免許状取得状況…… 52
6．別府大学教職課程履修プロセス…… 53

巻頭言

いまに続く教員輩出の流れ

別府大学教職課程委員会
委員長　今井　航
（文学部教職課程）

本学は、2020年には前身の別府女子大学の誕生から70周年を迎える。この間、本学が果たしてきた役割の１つに一定の教員を輩出してきたことが挙げられる。

近年の様子は、どうか。関係教職員や卒業生あるいは同窓会事務局などに連絡をとりながら可能なかぎりで調査した結果が右上の表である。この表では、過去５年間における公立学校の教員採用者数が示されている。ここでは、別府大学の場合であることを断っておく。

この５年間では、計40名が公立学校の教員に採用されている。うち38名が卒業後に選考試験に合格を果たし採用された者で、あとの２名は現役合格者である。

学科別に見てみると、国際言語・文化学科の出身者が21名で最多である。その半数以上の13名は高等学校もしくは中学校の国語で採用されている。史学・文化財学科の出身者も16名と多い。2014年度には16倍を突破して世界史の教員に採用されたり、翌15年度には30倍を突破して日本史の教員に採用されたりした者が含まれる。難関をくぐり抜けて高等学校の教員に採用された者が見られるのは、国語についても言えることである。また、最近では、２年連続で中学校の理科に合格している。

表　2014～18(平成26～30)年度の５年間における公立学校教員採用者数

学科名	2014	2015	2016	2017	2018	計
国際言語・文化	２名	３名	３名	７名	６名	21名
史学・文化財	４名	５名	５名	１名	１名	16名
人間関係						
食物栄養						
発酵食品				１名	２名	３名
国際経営						
計	６名	８名	８名	９名	９名	40名

注１）国際言語・文化学科には、旧国文・英文・芸術文化の各学科の卒業生を含む。
注２）史学・文化財学科には、旧史・文化財の各学科の卒業生を含む。
注３）発酵食品学科には、旧食物バイオ学科の卒業生を含む。
注４）国際言語・文化学科の2017年度の７名には、現役合格者２名（中学国語/中学英語）が含まれる。

いうまでもなく、いまでもこうした教科はもちろんのこと、美術や商業などの臨時講師や非常勤講師などを務めながら選考試験に合格して採用されるのを目指し続けている卒業生は数多い。また、たとえば、人間関係学科の卒業生のなかには、卒業後に小学校１種の免許状を取得して小学校の教員となった者もいる。さらに、私立学校で採用された者も、この５年間では把握できるだけで計15名を数える。

ところで、この『教職への道』は、いまから37年前の1981（昭和56）年に創刊された。手元の創刊号を開いてみると、その５頁に「過去３年間の教員就職状況」が学科ごとに示されている。これによれば、40年ほど前のことであるが1977 ～ 79（昭和52 ～ 54）年度の３年間で、旧国文学科では14名、旧英文学科では２名、旧史学科では６名、旧美学美術史学科では５名の計27名が教員に就職したと見られる。各数字には、いわゆる臨時も含まれている。創刊号には、合格の報も寄せられている。こうした各報を読むと、やはり臨時を務めながら合格を果たした卒業生のいることに気付かされる。

ここで、前身の別府女子大学の学生募集広告を見てみたい。広告には「卒業後の資格」とあり「卒業生はすべて文学士の称号を受け、高等学校、中学校の教員免状が与えらる」と明記されている。別府女子大学が教職課程の新設を当時の文部省に申請したのは、さきの『教職への道』創刊から遡ること、ちょうど30年前の1951（昭和26）年７月であった。開設時期は同年10月とされ、教員免許は国語・英語の２教科から始まった（『別府大学の三十年』佐藤学園・別府大学、1978年、41頁）。

創刊号には、旧国文学科を1971（昭和46）年に卒業した愛媛県立の高等学校教諭から当時の教職課程履修者に教育実習のアドバイスが寄せられたり、さらには旧英文学科の前身である英文学専攻を1959（昭和34）年に卒業した宮崎県教育研修センターの指導主事から教員志望者に対して激励文が寄せられたりしている。

また、７年前の31号（2011年）からは毎号のように「卒業後の私」が掲載されている。今号でも平成30年度福岡県教員採用選考試験に見事合格された旧国文学科の卒業生が原稿を寄せてくれている。

さらに、最近では、平成29年12月９日に本学同窓会主催の８回目を数える「教職受験対策セミナー」が開かれた。今回は、旧史学科1985（昭和60）年卒・旧国文学科2004（平成16）年卒・同2007（平成19）年卒の計３名の教諭が、みずからの合格体験や教師の仕事などの話を通じて、集った教職課程履修者に「皆さんも続け」とエールを送って下さった。

おもえば、教職課程履修者のなかに「恩師が別大出身だった」とか「親が卒業生で先生をしていて」とか言うのを耳にすることがある。いまに続く本学における教員輩出の流れは、こうした１つ１つの点の繋がりによっても支えられていると思う。このことは、やはり伝統のある短期大学部における教員輩出についても言えることであろう。

卒業生の実証や御活躍、さらには後輩への折にふれての御配慮に感謝しながら、この流れをいっそう豊かな流れへと発展させていきたい。